
あの子の代わり

藍村 泰

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あの子の代わり

【Nコード】

N1252K

【作者名】

藍村 泰

【あらすじ】

一人の男に対する、あるものの想い。私を見るときあなたの目は嫌悪に満ちている。

わたしを見る時の彼の瞳は、嫌悪に満ちている。どうやってあんな目で見れるのかわからない。彼はわたしのこと、ちっとも知らないし、知ろうともしないくせに。

最初の頃は、自惚れてしまった。他の子に振り撒く均一な笑顔は作り物で、わたしにだけは本心を見せてくれているのだと錯覚した。今となつてはいいお笑い草よ。仲間内でもよくからかわれるわ。お前は馬鹿だから、そんな妄想抱くんだった。

勝手に言っていればいい。わたしは誰に何と言われたって構わない。彼に優しく微笑んでもらえる日は刻々と近付いてきている気がするの。彼はあの子が周りからいなくなったら、わたしに愛想を振り撒くしかない。

利用されたつていいのよ、別に。誰も見返りを求めているわけじゃないの。安心して、もう自惚れたりしないわ。

ただね——あの子の身代わりでもいいの。わたしを見てくれないかしら。見て、笑ってくれないかしら。お腹の中で憎悪に燃えてたつていいのよ。あなたを満たせる自信はあるわ。

その冷えた眼差しがとても好き。ゾクゾクする。わたしに言い寄ってくる人らが眼中に入らないくらい。気になつてしようがない。

彼を想像しただけで、もう体の火照りが抑えられない。

「……………おい」

沈黙を守っていた鋭い目つきの少年は、目の前でニコニコしている少年に制止の声を入れる。

「何だい、宗^{そう}」

「何だいまくそもあるか。てか、おれが訊きたいぐらいだよ。何だよその話は」

「え、彼女とあの子と宗の三角関係の話だろう」

宗は荒々しくテーブルを叩き、吼えた。

「ふざけるな！ これは重大な問題なんだぞ。そんな陳腐な物語になんてしないでくれ。おれは本気で迷ってるんだ」

にこやかだった少年は、急に表情を一変させて半眼となる。

「諦めて、彼女に尻尾を振って喰いつけ」

「嫌だ」

「噛めば噛む程、味が出るぞ。というか、兄の言うことは聞け」

「……嫌だ」

少年は、宗の今にも泣きそうな顔を見て肩を竦めた。余程、彼女が嫌いらしいのは誰の目から見ても明らかだった。

「毎度毎度、何で米かパンかでここまで大事にするの？」

そう、宗は幼い頃より米が死ぬ程苦手であり、無理をして食べたあげく喉に詰まらせ救急車で病院に運ばれたこともある。しかし、兄は米料理が大好きなので、必然的に主食が米になることが多い。これぞ年功序列というものである。

彼女は米で、あの子はパン。

兄の話は、悔しいことに的を射てると思った宗だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1252k/>

あの子の代わり

2010年10月23日18時45分発行